

平成30年用さくらんぼ病害虫防除基準

発行：J A さがえ西村山・さがえ西村山さくらんぼ部会

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用回数	総使用回数	散布量	注 意 事 項 (収穫前使用回数、総使用回数)	防 除 履 歴
① 発芽直前まで	カイガラムシ類幼虫 カイガラムシ類 (ハダニ類)	1. 水 (88 ℓ)	7日前まで 発芽前	2回以内 -	360~400ℓ	1. 石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)を散布する場合は、本防除の10日以上前に実施する。 2. ハーベストオイル50倍に石灰硫黄合剤10倍を加用するときは、水にハーベストオイルを加え、十分搅拌均匀に石灰硫黄合剤を加え攪拌し速やかに散布する。 3. ハーベストオイル50倍に替えてスプレーオイル50倍(発芽前、-)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. アプロードフロアブル 1,500倍(66mℓ)					
		3. ハーベストオイル 50倍(2ℓ)					
② 開花1日前 (風せん状)	灰 星 病 炭 そ 病	1. フルーツセイバー 1,500倍(66mℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ	1. ハマキムシが多い園では、フェニックスフロアブル4,000倍(前日まで、2回以内)を加用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
③ 開花3日後 (5月上旬)	灰 星 病 炭 そ 病 褐色せん孔病 カイガラムシ類	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10mℓ)	前日まで	3回以内	500ℓ	1. 褐色せん孔病対策としてサンリット水和剤に替えてナリアWDG2,000倍(前日まで、3回以内)、オーシャインフロアブル3,000倍(前日まで、5回以内)を使用してもよい。 2. ハマキムシが多い園では、バイオマックスDF2,000倍(発生初期、但し前日まで、-)を加用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. サンリット水和剤 2,000倍(50ℓ)					
		3. オーンサイド水和剤80 800倍(125ℓ)					
殺虫剤、除草剤の制限 訪花昆虫を保護するため、4月下旬(マメコバチ等活動期)からミツバチ巣箱撤去時期まで殺虫剤、除草剤の散布はしない。							
④ 開花15日後 果箱撤去後 (5月中旬)	灰 星 病 炭 そ 病 褐色せん孔病 ハマキムシ類	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10mℓ)	前日まで	2回以内	500ℓ	1. コアオカシカメの発生が多い園では、ウララDF2,000倍(前日まで、2回以内)を散布する。 2. コスカンパが多い園地では、スカンパコンシを100本/10a設置する。 3. オウトウハマダラミバエ(オビレズミハナゾウムシ)が多い園地では、ダイアジノン水和剤34㉑に替えてアグロスリン水和剤1,000倍(3日前まで、2回以内)を散布してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. パスワード顆粒水和剤 1,500倍(66ℓ)					
		3. オーンサイド水和剤80 800倍(125ℓ)					
		4. ダイアジノン水和剤34㉑ 1,000倍(100ℓ)					
⑤ 5月下旬	灰 星 病 炭 そ 病 褐色せん孔病 カイガラムシ類	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50mℓ)	前日まで	3回以内	500ℓ	1. ハマキムシ類が多い園では、ハマキコン-Nを150本/10a設置する。 2. ハダニの発生が多い園では、カネナイトフロアブル1,000倍(7日前まで、1回)を収穫前使用回数に注意して散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. モスピラン顆粒水溶剤㉑ 2,000倍(50ℓ)	前日まで	1回			
【特別】 カイガラムシ類 5月下旬 6月上旬	ウメシロカイガラムシ カメムシ類	1. スプラサイド水和剤㉑ 2,000倍(50ℓ)	7日前まで	3回以内	500ℓ	1. ウメシロカイガラムシは年によって発生時期が異なるため、発生状況を確認し防除する。 2. 早生種の収穫時期を考慮し、収穫前使用回数を厳守する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑥ 6月上旬	灰 星 病 オウトウショウジョウバエ ハダニ類	1. ロブラール500アクア 1,500倍(66mℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ	1. 収穫にあたっては、樹上に果実を残さないようにするとともに、落果した果実は適切に処分し、園地の清掃を図る。 2. オウトウショウジョウバエの被害果実を確認した場合は直ちに摘み取り処分し、防除を行なう。 3. ロブラール500アクアは、汚染に注意する。 4. ロブラール500アクアに替えて、ファンダジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。 ●収穫前日まで使用できる殺虫剤(ショウジョウバエ対策)	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. スタークル顆粒水溶剤 2,000倍(50ℓ)	前日まで	2回以内			
		3. スターマイトフロアブル 2,000倍(50mℓ)	前日まで	1回			
⑦ 6月中旬 (6月20日頃)	灰 星 病 オウトウショウジョウバエ	1. インダーフロアブル 5,000倍(20mℓ)	前日まで	2回以内	400ℓ	●収穫前日まで使用できる殺虫剤(ショウジョウバエ対策)	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. エクシレルSE 2,500倍(40mℓ)	前日まで	3回以内			
⑧ 6月下旬	灰 星 病 炭 そ 病 褐色せん孔病 ショウジョウバエ類 ハダニ類	1. ナリアWDG 2,000倍(50ℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ	1. 収穫が長引く場合や、降雨が続く場合に散布する。また、収穫後の褐色せん孔病対策として使用してもよい。 2. 紅秀峰のショウジョウバエ対策として7月中旬に更に殺虫剤を散布する。 3. 収穫が長引く場合は、ダニグッターフロアブルをくり上げ散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. テルスターフロアブル㉑ 4,000倍(25mℓ)	前日まで	2回以内			
⑨ 7月上旬	灰 星 病 炭 そ 病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50mℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ	1. 収穫が長引く場合や、降雨が続く場合に散布する。また、収穫後の褐色せん孔病対策として使用してもよい。 2. 紅秀峰のショウジョウバエ対策として7月中旬に更に殺虫剤を散布する。 3. 収穫が長引く場合は、ダニグッターフロアブルをくり上げ散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. サムコルフロアブル10 2,500倍(40mℓ)	前日まで	3回以内			
【特別】 晩生種対策 7月上旬 ~中旬	灰 星 病 炭 そ 病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ	1. ナリアWDG 2,000倍(50ℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ	1. 収穫が長引く場合や、降雨が続く場合に散布する。また、収穫後の褐色せん孔病対策として使用してもよい。 2. 紅秀峰のショウジョウバエ対策として7月中旬に更に殺虫剤を散布する。 3. 収穫が長引く場合は、ダニグッターフロアブルをくり上げ散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ダントツ水溶剤 2,000倍(50ℓ)	前日まで	2回以内			
⑩ 収穫直後 (7月上旬) 隣接園 飛散注意	褐色せん孔病 ハマキムシ類 ハダニ類	1. 展着剤(アピオン-E) 1,000倍(100mℓ)	収穫終了後~ 落葉期まで	3回以内	500ℓ	1. ダニグッターフロアブルは新梢伸長期には新葉に葉害を生じる恐れがあるので注意する。また、開花期の水稲に本剤がかかった場合、穂に葉害を生じる場合があるので、かからないよう注意する。 2. ダニ剤を使用する場合は、4日前までに草刈りを終了する。 3. ドキリンフロアブルに替えて、コサイド3000 2,000倍(収穫後、-) (クレフン100倍加用)を使用してもよい。 4. 褐色せん孔病の多い園では、8月下旬にICボルドー66D40倍(-,-)を散布してもよい。 5. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを単用で散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. オキシラン水和剤 600倍(166ℓ)					
		3. ダイアジノン水和剤34㉑ 1,000倍(100ℓ)					
		4. ダニグッターフロアブル 2,000倍(50mℓ)					
【特別】 7月下旬~ 8月上旬	褐色せん孔病	1. 展着剤(アピオン-E) 1,000倍(100mℓ)	21日前まで	5回以内	500ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. トレノックスフロアブル 500倍(200mℓ)					
⑪ 8月中旬	褐色せん孔病 (炭そ病) ウメシロカイガラムシ	1. 展着剤(アピオン-E) 1,000倍(100mℓ)	収穫終了後~ 落葉期まで	3回以内	500ℓ	1. ダニグッターフロアブルは新梢伸長期には新葉に葉害を生じる恐れがあるので注意する。また、開花期の水稲に本剤がかかった場合、穂に葉害を生じる場合があるので、かからないよう注意する。 2. ダニ剤を使用する場合は、4日前までに草刈りを終了する。 3. ドキリンフロアブルに替えて、コサイド3000 2,000倍(収穫後、-) (クレフン100倍加用)を使用してもよい。 4. 褐色せん孔病の多い園では、8月下旬にICボルドー66D40倍(-,-)を散布してもよい。 5. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを単用で散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ドキリンフロアブル 800倍(125mℓ)					
		3. バリアード顆粒水和剤㉑ 4,000倍(25ℓ)					
⑫ 9月上旬	褐色せん孔病 樹脂細菌病 (炭そ病)	1. ICボルドー66D 40倍(2.5kg)	-	-	500ℓ	1. 幼木及び樹脂細菌病が多い園では必ず散布する。また、石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)を散布してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ICボルドー66D 40倍(2.5kg)	-	-			
⑬ 落葉後 (11月上旬~)	樹脂細菌病	1. 展着剤(アピオン-E) 1,000倍(100mℓ)	-	-	400ℓ	1. 幼木及び樹脂細菌病が多い園では必ず散布する。また、石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)を散布してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ICボルドー66D 40倍(2.5kg)	-	-			
<p>コスカンパ対策 休眠期間中にラビキラー乳剤㉑ 200倍(落葉後~発芽前(休眠期)、1回)を、落葉後なるべく早い時期に枝幹に散布する。</p> <p>野そ対策(食害忌避) 樹雪直前に、フジワン粒剤(根雪前、2回以内)を200g/樹、幹周り半径約50cm範囲の落葉や雑草を取り除き均一に散粒し、レーキ等で表土と混和する。</p>							

系統	薬剤名	希釈倍数	使用回数
合成ピレスロイド剤	テルスターフロアブル㉑	4,000倍	2回以内
	ダントツ水溶剤	2,000倍	2回以内
ネオニコチノイド剤	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	2回以内
	サムコルフロアブル10	2,500倍	3回以内
ジアミド系	エクシレルSE	2,500倍	3回以内

薬剤名	希釈倍率	収穫前使用回数	総使用回数	使用時期
マイトコーネフロアブル	1,000倍	14日前まで	1回	○
コロマイト乳剤	1,000倍	7日前まで	1回	○
オマイト水和剤	750倍	収穫後~落葉期	2回以内	○
コテツフロアブル㉑	2,000倍	14日前まで	2回以内	○

耕種防除

- 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。
- 園地の角など薬剤到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬剤が隅々まで到達しやすいようにする。また、雨よけ栽培では、被覆部分からはみ出す枝もせん除する。
- 被害(果)や被害葉、被害枝は、見つけしだい摘除し、土中深く埋める。
- 枯死枝やミイラ果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。
- 早期落葉(8月~9月)した被害葉はできるだけ集め、適切に処分する。
- 休眠期に、高圧水による洗いやブラシかけを行う。
- 見つけしだい摘除する。
- 農薬散布にあたっては、散布ムラがないよう丁寧に散布する。

さくらんぼ施肥基準(成木:10a当り) どちらかの体系を選択する。

●さくらんぼ専用一発肥料体系(省力化努力軽減)

肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
さくらんぼ専用一発80	80~100kg	7月上旬中旬(収穫後)	9.6~12.0	1.6~2.0	1.6~2.0

●礼肥+基肥体系

作型・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
雨よけテント 60kg (紅秀峰60kg)	樹梢追加肥S248(わかみどり)	10~20kg(紅秀峰:25kg)	7月上旬中旬(収穫後)	2.0~4.0(5.0)	0.4~0.8(1.0)	0.8~1.6(2.0)
	プレッシュフルーツ有機70	60~80kg(紅秀峰:50kg)	8月中下旬	6.0~8.0(5.0)	3.0~4.0(2.5)	1.2~1.6(1.0)
	合 計			8.0~12.0(10.0)	3.4~4.8(3.5)	2.0~3.2(3.0)

おとうと樹脂細菌病予防対策

- 晩秋期(11月以降)のICボルドー66D、休眠期の石灰硫黄合剤の散布を欠かさない。
- 樹脂の漏出が見られたら、褐色部位を木質部まで達するように、健全部を含め削り取り、トップジンMペースト(病部削り取り直後、3回以内)またはパッチレート(病部削り取り直後、3回以内)を塗布する。
- 適正樹勢の維持に努め、防風ネットを設置する。
- 未結果樹は発芽後から落葉後まで、ICボルドー66Dを主体に、幹にも丁寧に散布する。また、4月中旬~5月上旬にマイコシールド1,500倍(7日前まで、2回以内)を散布してもよい。なお、耐性菌出現防止のため、連用は避ける。